

略年譜ならびに著作目録

安藤重和

略歴

- 一九七〇年三月 名古屋大学文学部文学科（国語国文学専攻）卒業
- 一九七二年三月 名古屋大学大学院文学研究科（国文学専攻）修士課程修了
- 一九七五年三月 名古屋大学大学院文学研究科（国文学専攻）博士課程満期退学
- 一九七五年四月 名古屋大学文学部助手
- 一九七六年四月 愛知教育大学教育学部講師
- 一九七八年一月 愛知教育大学教育学部助教授
- 一九九一年四月 愛知教育大学教育学部教授
- 二〇一〇年四月 愛知教育大学教育学部特別教授
- 二〇一〇年四月 愛知教育大学教育学部名誉教授

著作目録

- (1) 『松村博司教授停年退官記念国語国文学論集』（共著）中部日本教育文化会 一九七三年 四月
- (2) 様あしき御もてなし―源氏物語の始発情況をめぐる― 『名古屋大学国語国文学』 三五 名古屋大学国語国文学会 一九七四年二月
- (3) 国語教育における「読み」をめぐる―古典教材を中心に― 『名古屋大学国語国文学』 三七 名古屋大学国語国文学会 一九七五年二月

- (4) 桐壺院の靈による源氏救出をめぐる ―『名古屋大学文学部研究論集』 二二三 名古屋大学文学部 一九七六年 三月
- (5) 現実認識の爲の作文教育 『解釈』 二二一・二二 解釈学会 一九七六年 三月
- (6) 「馴れ顔」考―薫論ノート(一)― 『国語国文学報』 三二 愛知教育大学国語国文学研究室 一九七七年 三月
- (7) 紫式部日記試論―寛弘五年五節左京の君事件をめぐる― 『平安文学研究』 五八 平安文学研究会 一九七七年 一月
- (8) 寛弘五年彰子懷妊中参内への経緯をめぐる―紫式部日記首欠説存疑― 『平安文学研究』 五九 平安文学研究会 一九七八年 六月
- (9) 「渡殿の戸口の局」の位置をめぐる―紫式部日記試論― 『国語国文学報』 三五 愛知教育大学国語国文学研究室 一九七九年 三月
- (10) 「文学教材分析の観点と実際」(共著) 明治図書出版株式会社 一九七九年 四月
- (11) 「松村博司先生古希記念国語国文学論集」(共著) 笠間書院 一九七九年 一月
- (12) 更級日記の「甥ども」をめぐる ―『国語国文学報』 三七 愛知教育大学国語国文学研究室 一九八〇年 三月
- (13) 御物本更級日記の傍注をめぐる ―『名古屋平安文学研究会会報』 四 名古屋平安文学研究会 一九八〇年 三月
- (14) かぐや姫の贖罪譚―竹取物語を貫流するもの― 『国語国文学報』 三八 愛知教育大学国語国文学研究室 一九八一年 三月
- (15) 枕草子「大進生昌が家に」の段をめぐる史的考察 『国語国文学報』 三九 愛知教育大学国語国文学研究室 一九八二年 三月
- (16) 「斑竹姑娘」考―「竹取物語」との先後関係をめぐって― 『古代文化』 三四・七 古代学協会 一九八二年 七月
- (17) 「ごん狐」をめぐる ―『愛知教育大学研究報告(人文科学)』 三三三 愛知教育大学 一九八四年 一月
- (18) 「こまのおもと」考―『紫式部日記』 試論― 『古代文化』 三六・三 古代学協会 一九八四年 三月
- (19) 「後藤重郎教授停年退官記念国語国文学論集」(共著) 名古屋大学出版会 一九八四年 四月
- (20) 古本系紫式部集付載「日記歌」をめぐる―紫式部日記首欠説存疑― 『国語国文学報』 四二 愛知教育大学国語国文学研究室 一九八五年 三月
- (21) 「松村博司先生喜寿記念国語国文学論集」(共著) 右文書院 一九八六年 一月
- (22) 孝標女の子供達の出生時期をめぐる―更級日記試論― 『国語国文学報』 四四 愛知教育大学国語国文学研究室 一九八七年 三月

- (23) 紫式部初出仕年時考 『平安文学研究』 七七 平安文学研究会 一九八七年 五月
- (24) 更級日記の東山滞在記事をめぐる 『国語国文学報』 四五 愛知教育大学国語国文学研究室 一九八七年 一月
- (25) 「権狐」成立試論 『愛知教育大学研究報告(人文科学)』 三七 愛知教育大学 一九八八年 二月
- (26) 「芹つみ」考 『国語国文学報』 四六 愛知教育大学国語国文学研究室 一九八八年 三月
- (27) 日本文学研究大成『竹取物語・伊勢物語』(共著) 国書刊行会 一九八八年 一〇月
- (28) アルフォンス・ドーデー作「最後の授業」をめぐる 『愛知教育大学研究報告(人文科学)』 三八 愛知教育大学 一九八九年 二月
- (29) 「竹取物語」の祖型をめぐる試論―『今昔物語集』所載竹取説話を通して― 『古代文化』 四一・五 古代学協会 一九八九年 五月
- (30) 「講座平安文学論究」第六輯(共著) 風間書房 一九八九年 一〇月
- (31) 新美南吉作「手袋を買ひに」の重層構造 『国語国文学報』 四八 愛知教育大学国語国文学研究室 一九九〇年 三月
- (32) 「女流日記文学講座」第四卷(共著) 勉誠社 一九九〇年 一月
- (33) 「後藤重郎先生古稀記念国語国文学論集」(共著) 名古屋大学出版会 一九九一年 二月
- (34) 「平安時代の作家と作品」(共著) 武蔵野書院 一九九二年 一月
- (35) かぐや姫昇天の前後をめぐる 『国語国文学報』 五〇 愛知教育大学国語国文学研究室 一九九二年 三月
- (36) 紫式部集の節月意識をめぐる―「女院かくれさせたまへるはる」を中心に― 『日本文化論叢』 一 愛知教育大学日本文化研究室 一九九三年 三月
- (37) 紫式部日記人物考証―左衛門の内侍をめぐる― 『日本文化論叢』 四 愛知教育大学日本文化研究室 一九九六年 三月
- (38) 左京の君事件をめぐる客観的側面について―紫式部日記試論― 『日本文化論叢』 五 愛知教育大学日本文化研究室 一九九七年 三月
- (39) 兼時の「おとろへ」の記事をめぐる―紫式部日記成立試論― 『国語と国文学』 七四・七 東京大学国語国文学会 一九九七年 七月
- (40) 道長使用暦の七十二候をめぐる 『日本文化論叢』 六 愛知教育大学日本文化研究室 一九九八年 三月

- (41) 大納言の君・小少将の君をめぐって―紫式部日記人物考証― 『中古文学』 六三 中古文学会 一九九九年 五月
- (42) 『和歌史論叢』(共著) 和泉書院 二〇〇〇年 二月
- (43) 竹取物語「燕の子安貝」の段に於ける本文順序の乱れについて 『日本文化論叢』 八 愛知教育大学日本文化研究室 二〇〇〇年 三月
- (44) 道長使用暦注の日出入時刻と昼夜時間の「ズレ」をめぐって 『日本文化論叢』 一〇 愛知教育大学日本文化研究室 二〇〇二年 三月
- (45) 「和歌を奉る」ということ―古今集成成立に関する一考察― 『日本文化論叢』 一一 愛知教育大学日本文化研究室 二〇〇三年 三月
- (46) 古今集付載真名序の「臣貫之等」という表現をめぐって 『日本文化論叢』 一三 愛知教育大学日本文化研究室 二〇〇五年 三月
- (47) 「こよみにはつゆきふるとかきたる日」をめぐって―紫式部集試論― 『日本文化論叢』 一五 愛知教育大学日本文化研究室 二〇〇七年 三月
- (48) 「いそのはまにつるのこゑごまなくを」に関する一考察―紫式部集試論― 『名古屋大学国語国文学』 一〇〇 名古屋大学国語国文学会 二〇〇七年一〇月
- (49) 紫式部日記「十一日の暁」条と犬産穢の物忌み 『日本文化論叢』 一六 愛知教育大学日本文化研究室 二〇〇八年 三月
- (50) 『紫式部日記の新研究―表現の世界を考える』(共著) 新典社 二〇〇八年 五月
- (51) 『源氏物語と紫式部 研究の軌跡 研究史編』(共著) 角川学芸出版 二〇〇八年 七月
- (52) 「女房」考 『日本文化論叢』 一七 愛知教育大学日本文化研究室 二〇〇九年 三月
- (53) 古今集冒頭歌をめぐって 『日本文化論叢』 一八 愛知教育大学日本文化研究室 二〇一〇年 三月
- (54) 竹取物語の難題提示をめぐって 『日本文化論叢』 一九 愛知教育大学日本文化研究室 二〇一一年 三月
- (55) 竹取物語と神仙思想―「天の羽衣」の由来― 『日本文化論叢』 二〇 愛知教育大学日本文化研究室 二〇一二年 三月